

平成22年3月の雪崩について

- ① 日 時 平成22年 3月27日(土) 11:30～12:30頃
- ② 場 所 那須・茶臼岳東方、郭公沢最上部（標高1,550m-1,600m）
- ③ 当事者 第2日目実技講習 第4班（講師1名＋生徒11名＋顧問1名）
- ④ 事故の概要

第6班の講師と顧問の教員が、沢の上部のやや急な斜面を通過する訓練のためロープを張っていた際に、付近の積雪の表層10cm程度が流れ出した。この雪崩は第6班の講師が確保したロープを顧問の教員が体に付け、ルート工作を行うために斜面を下降している時、体重がかかったロープが斜面上部の積雪面に食い込んだことにより発生した。

沢の最上部に落ちた雪は、積雪を巻き込みながら細く長く流れた。

目測では、その幅は2～6m、長さは100～200m程度と思われる。直下の沢筋では第4班の講師が次の訓練のために固定ロープを張っている最中であり、その間小休止していた第4班の顧問教師及び生徒が巻き込まれた。

この時、雪面に座って休憩していた生徒は腰まで雪に埋もれながら上半身を起こしたまま流された。倒れ込んで流された者もいたが、完全に埋もれた生徒はいなかった。流された距離は50～60m程度である。全員が自力で回避または脱出し、怪我はなかった。

第4班が沢筋にデポしていたザック等の装備も流された。

- ⑤ 現場の見取り図 別紙（地形図に表示）
- ⑥ 処理の状況

○事故発生直後に無線を通じて雪崩の発生が連絡され、全員の無事が確認された。

○このことはその後の専門委員会、顧問会議で話し合われ、以後の講習会において、事故現場付近での実技講習は行わないこととした。

○この事故については、栃高体連事務局や県教委事務局への報告は行わなかった。

※ 引率教員の証言

- ・ 晴れていたと思われる。班の構成は、矢板東高校の生徒と他校の生徒数名と自分。
- ・ 場所はよく覚えていない。峠の茶屋よりさらに進み、夏道を上がったような気がする。
- ・ 初めは雪に慣れることを目的とし、傾斜を使い前転したり、滑ったりしていた。この時に、うつぶせで滑落した場合に両手で雪を覆うようにするという滑落停止の方法を学んだ。
- ・ 講師が、次の訓練のためフィックスロープを張っていた。
- ・ 自分と生徒は、座って休憩していた。
- ・ **雪崩発生。**
- ・ 斜面にて、視線は麓にあった。気配を感じ、頂方向に視線を移すと、雪の塊が、大きな波のように覆いかぶさってきた。何もできなかった。啞然とし、最初の記憶はない。
- ・ 今覚えているのは、気付いた時には、腰より下（座っていた）が雪に覆われ、ただただ流されていた。
- ・ 冷静さを取り戻し、このままではまずいと思ったと思う。
- ・ 一緒に流されている周りの生徒に、声をかけた。
- ・ 自分も、周りの雪を両手で集め、雪を囲い、停止することができた。
- ・ まもなく無線で呼ばれたので、それに答えた。おそらく大丈夫であることを伝えたとと思われる。それ以上の無線の内容は覚えていない。
- ・ 生徒のけがはなかったと思う。しばらくして、訓練が再開された。